

歴史的まちなみの伝統的木造建造物をさまざまな災害から護りぬく

KARTH シリーズセミナー第5回

平成29年7月23日(日曜日) 午後1時半～5時頃 (開場 午後1時)

## 大工棟梁から学ぶ—大地震でも倒壊を防ぐ木造伝統構法の智慧

関西木造住文化研究会は、「1995年阪神・淡路大震災の悲劇を2度と繰り返さないために我々は何をすべきか」の答えを見つけるために1998年11月に発足し、これまで京町家をモデルに伝統木造住宅の伝統文化を活かした防災性能の向上や再評価を目指して様々な活動を続けてきました。本セミナーでは、これまでの研究成果をふまえて、歴史的まちなみの伝統的木造建造物を、木造伝統文化・伝統意匠を活かした手法で様々な災害から護り、被害を軽減するための課題と対策をさまざまな視点から学び、考えます。

2016年熊本地震では日本の観測史上初めて震度7が2回たて続けに起こり、益城町の周期1-2秒応答では最大の強震動が記録されました。第5回セミナーは、大地震の強震動から伝統的木造建造物の倒壊を防ぐための課題と対策を大工棟梁から学び、考えます。お気軽にご参加下さい。

### ■プログラム

- ・午後1時～1時半 会場の防火・耐震改修町家の公開見学(解説付) : 自由参加
- ・午後1時半～5時頃 セミナー

### セミナー

#### 1. 「伝統木造建造物を様々な災害から護る—KARTH 研究成果の紹介 耐震対策その1」

KARTH 耐震研究チーム 田村佳英 (悠計画研究所)

平成26年度文化庁委託事業の木造文化財建造物総合防災診断指針の概要紹介

#### 2. 講義・意見交換「大工棟梁から学ぶ—大地震でも倒壊を防ぐ木造伝統構法の智慧」

講師 江戸 保 氏

日本は様々な自然災害を受け易い地理的条件にあるため、日本建築の主流である木造伝統構法は、歴史的に様々な自然災害対策と修理・維持管理に関する技術的蓄積を内包しており、適切な設計・施工・維持管理によって今後の住まいに求められる居住性、省資源性、各種防災性能、耐久性等を高めて維持することができる。と考える。

その中で、地震被害を軽減するためには、日頃から建物・宅地の安全性を点検・維持管理して、大地震で被害にあっても人命を護り、倒壊せずに修理が容易な被害に抑えられるように耐震補強をしておくことが重要である。

本セミナーでは、阪神・淡路大震災の激震地の淡路においても、手がけた建物は倒壊をまぬがれ、被災建物の修復も行った大工棟梁から、伝統構法の木造住宅の倒壊を防ぐための対策、被災建物の修復の可能性の見方、修復の要点を学び、被害に遭っても人命を護り、地元の人材・資源を活用して修復して迅速に復旧・復興できる文化が各地に根付いていくための方策を考える。



地震で大変形した建物  
(日経アーキテクチュア編、阪神大震災の教訓【復興編】「地震に強い建築」、1995.8より)

### ●講師プロフィール 江戸 保 氏

1950年淡路島津生まれ。父の下で大工修業を始め、淡路の民家、寺社建築さらに文化財の仕事に携わる。「須磨寺三重塔」、「勝福寺茶席、如意庵」、「妙観寺庫裡」をはじめ、住宅や民家の他、数寄屋建築、社寺建築を手掛ける。米国ペンシルバニア大学、ワシントン大学、ユタ大学などで日本建築を紹介。兵庫県ヘリテージマネージャー。



●会場：西陣ヒコバエノ家(京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町632番地、角地)

\*ヒコバエ(薬)とは、樹木の切り株や根元から生えてくる若芽を意味します。

●参加費：セミナー1,000円(資料付、会員500円、学生無料)

●参加方法：お名前、所属、電話・FAX番号、メールアドレスを明記の上、7月18日（火）までに FAXまたはメール、電話でお申込み下さい。

●参加申込み・問合せ先 NPO 法人 関西木造住文化研究会（略称 KARTH：カース）

TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725

E-mail [info@karth.sakura.ne.jp](mailto:info@karth.sakura.ne.jp) <http://karth.org/> 住所 上記会場と同じ

●会場の交通アクセス

□バス停「今出川浄福寺」又は「千本今出川」又は「千本上立売」より徒歩約5分

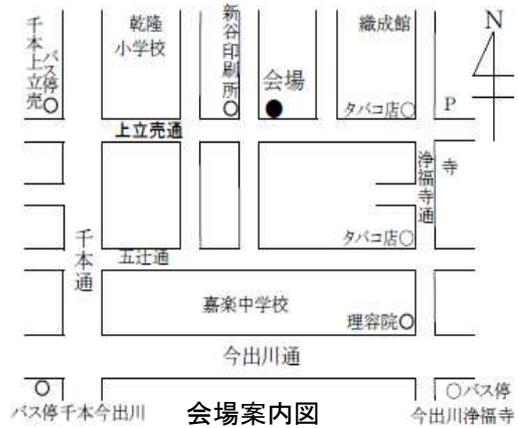
□JR 京都駅より(所要時間 約40分、角地)

①地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3番出口、烏丸今出川交差点の今出川通の東側バス停から西行きバス乗車後、「今出川浄福寺」下車

②市バス利用：A3の206番に乗車後バス停「千本上立売」下車、またはB2の50番、101番乗車後、バス停「千本今出川」下車



会場



会場案内図

これまでのシリーズセミナー(会場:西陣ヒコバエノ家、第6回以降は詳細が決まり次第お知らせします)

第1回 「樹木災害と文化財防災」(2016年3月6日(日))

講師 小玉泰義(岡山県農林水産総合センター森林研究所木材加工研究室)

第2回 「火災の実態と建築物の耐火に関する基本」(4月24日(日))

講師 吉田正友(大阪工業大学 特任教授(博士(工学)))

第3回 「伝統木造建築技術を基盤とする防災文化の再構築」(7月23日(土))

講師 渡辺一正(NPO市民文化財ネットワーク鳥取 理事長)

第4回 「地震の強震動から建物被害を抑えるために」(2017年2月5日(土))

第1部「見落とされてきた破壊的な鉛直地震動の現象について」

講師 前原 博(一般財団法人 地球システム総合研究所 上席研究員)

第2部勉強会「伝統木造柱梁構法の災害特性-粘り強さに籠められた仕掛け-を考える」

講師 渡辺一正(前掲)

会場 西陣ヒコバエノ家

(下記メンバーの所属は当時の内容、WM:ワーキングメンバー)

KARTH 自主研究 関西の木造伝統住文化再生5ヵ年計画プロジェクト『街区レベルの防災まちづくりと木造伝統住文化の共存手法の提案』(1999~2001)の一環で、築約160年(江戸後期築)の木造伝統構法の町家を2000年に伝統構法で防火・耐震改修した再生モデル町家(下記の防火・耐震実験で改修の有効性を検証)

- ・改修設計 KARTH(悠計画研究所 田村佳英・武田眞理子)、木下孝一(数寄屋研究所心傳庵大工棟梁)、WM23名
- ・改修施工 数寄屋研究所心傳庵、協力:銘木問屋 松文商店
- ・改修前後の振動実験 統括指導:鈴木 有(秋田県立大学木材高度加工研究所 教授)、WM23名
- ・土壁耐震実験 統括指導:鈴木 有(前掲)、実験:村上雅英(近畿大学 助教授)&同研究室、WM22名
- ・土壁防火実験 統括指導:長谷見雄二(早稲田大学 教授)、実験協力:日本建築総合試験所、WM18名 他
- ・「京都西陣の町家再生~西陣薬(ヒコバエ)ノ家~とその構造・防火温熱環境性能の検証」活動は、NPO 木の建築フォーラム主催・2003年度第1回「木の建築賞大賞」を、研究者の方々と共同受賞
- ・京都市市街地景観条例歴史的意匠建造物。防災協力井戸あり



1) 再生モデル改修設計・施工



2) 再生モデル振動実験



3) 木造土壁せん断耐力実験



4) 木造土壁火災安全性実験